厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題推進研究事業）

「我が国の世界保健総会等における効果的なプレゼンスの確立に関する研究」（H29-地球規模-一般-002）

平成 29 年度分担研究報告書

Global Health Diplomacy Workshop

研究分担者	仲佐保	国立国際医療研究センター　運営企画部長
	明石秀親	国立国際医療研究センター　連携協力部長
	三好知明	国立国際医療研究センター　人材開発部長
	坂元晴香	東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室 特任研究員
研究協力者	渋谷健司	東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室　教授
	野村周平	東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室　助教

研究要旨

グローバル・ヘルスの重要性が高まっている中、我が国が主導してグローバルヘルスの課題を前進させ、主要会合において効果的に議論を先導する役割を果たすためには、そのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究は、同じようにグローバルヘルス領域での人材育成を優先課題として掲げるタイト協力し、日・タイ双方の将来を担う若手人材に対し会議でのスピーチや交渉、効果的・戦略的介入、ファシリテーション等の能力開発を行うものである。

研修は年に２回（日・タイ　各１回）、３～４日の日程で開催され、参加者たちはグローバルヘルスの概況から具体的な交渉術まで、グローバルヘルス領域における基礎的スキルについて包括的学ぶ。研修の最後には参加者全員に対してアンケート調査を実施し今後 WHO 総会等国際会議に参加する際や、日々の業務においてどのような点が有用だったか聞き取りを行う。得られたアンケート結果を踏まえ、次年度以降の人材開発研修プログラム案の策定を行う。

A．研究目的

グローバル・ヘルスの重要性が高まっている中、我が国が主導してグローバルヘルスの課題を前進させ、主要会合において効果的に議論を先導する役割を果たすためには、そのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究は、同じようにグローバルヘルス領域での人材育成を優先課題として掲げるタイト協力し、日・タイ双方の将来を担う若手人材に対し会議でのスピーチや交渉、効果的・戦略的介入、ファシリテーション等の能力開発を行うものである。

B．研究方法

年に２回（日本・タイ　各１回）で、グローバルヘルス領域の中でも特に保健外交に焦点を当てた研修を開催する。対象は、厚生労働省/保健省、アカデミア、NGO 職員等グローバルヘルスに関わる若手とする。また、日本とタイ以外にも、グローバルヘルス領域における人材開発に興味を有する国については参加を促す（フィリピン、ラオス等）。

研修は２泊３日～３泊４日の日程で行い、扱う内容については主に以下の内容とする。1) グローバルヘルスの概況、2) グローバルヘルスのアクターの変化、3) グローバルヘルスの主要課題の傾向、4) WHO 総会等の WHO governing body における意思決定プロセスのあり方、5) WHO 総会等における効果的なインターベンションの構築方法、6) 国際会議等における交渉術。

ワークショップ終了時点で参加者全員を対象としたアンケート調査を実施し、今後 WHO 総会等国際会議に参加する際や、日々の業務においてどのような点が有用だったか聞き取りを行う。得られたアンケート結果を踏まえ、次年度以降の人材開発研修プログラム案の策定を行う。

C．研究結果

平成 29 年度には５月に３泊４日の日程でタイにて、11 月には２泊３日の日程で日本にて研修を開催した（プログラム詳細については参考資料として掲載）。日本での研修には合計 11 カ国から 41 名の参加があった他、公衆衛生省及びマヒドン大学より有識者を招聘し、研修全般に渡り支援を受けた。

日本での研修では、最初に外務省国際保健政策室並びに東京女子医科大学熱帯学・国際環境教室より、グローバルヘルスの概況、グローバルヘルス領域のアクターの変化、現在のグローバルヘルスにおける主要課題等についてご講義いただいた。その後、WHO 総会における主要議題のうち、「がん患者における緩和ケア」並びに「保険医療人材の国境を超えた移動」の２つについて、参加者各自に発言を作成してもらい、実際に発言・プレゼンテーションを実施した。交渉術に関しては、2017 年５月の第 70 回 WHO 総会において議論が紛糾した「小児の肥満予防」を取り上げ、参加者各自をスタンスの異なる複数の国に割り振り、実際の交渉の練習をおこなった。研修後のアンケート調査では、大半の参加者から参考になったという好意的なフィードバックが得られた。一方で、WHO 総会等の

国際会議に参加できる機会は非常に限られているため、発言や交渉の練習等については、実際に会議に参加しない場合でも有用なものとなるよう、次年度以降はさらなる工夫が必要であるという一面も明らかになった。

D.　結論

我が国がグローバルヘルスを牽引していく上で、グローバルヘルス領域で活躍できる人材の育成は急務であるが、今までは体系的なトレーニングの機会は限られていた。今回実施した研修は包括的にグローバルヘルス領域の全体像を学べるとともに、発言や交渉等に実践も含まれており、参加者にとって非常に満足度の高いものとなった他、日本及びタイ双方における人的ネットワークの構築にも貢献した。　今年度のフィードバックを踏まえ内容を改定し、次年度以降も継続して人材育成研修を実施していくことが望ましい。

E. 研究発表

1. 論文発表

特になし

2. 学会発表

特になし

F. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし